



山本組合総合病院で行われている病棟改修

3階南側病棟を改修

山本組合
総合病院

透析室、化学療法室拡張

能代市落合の山本組合総合病院（近田龍一郎院長）で病棟改修が行われ

ている。3階南側病棟を閉鎖して透析室や外来化学療法室の拡張などが行

われており、6月には完成する見込みだ。

改修工事では3階南側のA病棟に人工透析室、

人間ドック室、外来化学

療法室、感染症室が設置

される。人工透析室は13

床から30床、外来化学療

法室は4床から7床に増

床。ほかはそれぞれ4床

となる予定で、これまで

A病棟にあった外科は7階へ移動、全体では一般病床が34床減って500床となる。

2月に病棟再編に伴う入院患者の移動を実施。今月から本格的に工事が始まり、B病棟の精神科との間は板で仕切られ中の様子は見えない状態になっている。患者には院内放送で周知している。

病棟の再編は、「診断群分類別包括評価（DPC）」方式への変更を見据えたもの。DPCは、国が定めた疾病ごとの入院日数や一定の医療費などを基準に入院医療費を計算する方式で、在院日数の短縮などが求められる。近田院長は「地域特性もあり、都会と同じようにはいかない。患者や家族に説明して理解を得て、地域の先生たちとも連携を取り臨機応変に対応したい」と話している。